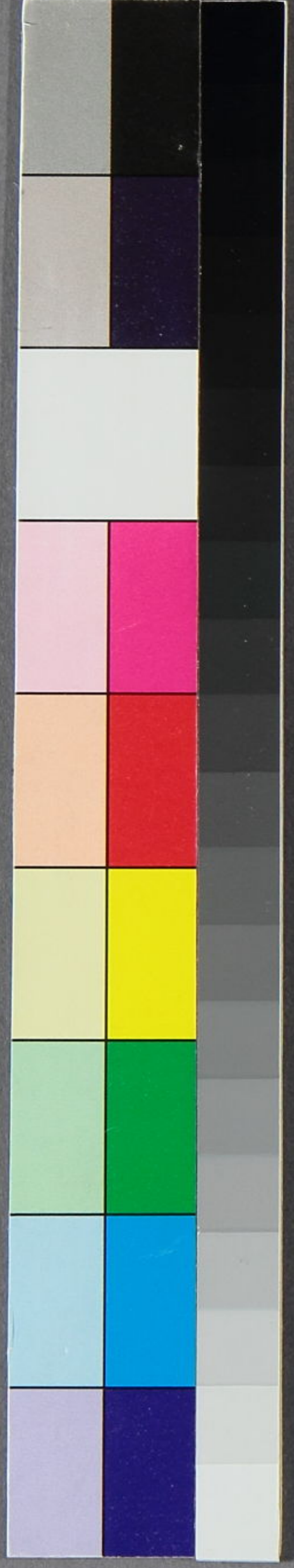


八代集抄

及櫻離別群振  
慶賀表傷  
十

特別  
イ 4  
3163  
104(14)









不破園々の色  
親のすむ所を  
さる里をさむる  
心明く

身をわくころの  
一門乃身と二門乃  
分て来りし所は  
今も志すゆゆ  
いさうなれに  
さうやう  
あうくさう  
さうさう

さうさうのわく  
格り人の無  
争うや争い  
よ争い別れ

こころのわく  
乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

七物唐のい  
いん松海  
様子や  
お

とせめて  
わ  
さ  
て  
さ  
今  
時  
衣  
か  
お

あ  
あ  
あ

公忠朝臣

乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

乃をけり

乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

乃をけり  
乃をけり  
乃をけり

いふはく人の多きを  
てはたせぬのち  
よきことありき  
さひまう物と  
わらへくは月北枕の  
いづれも人のま  
すまふおぼやうと  
とられしこと  
われはいつあひん  
いづれにせしむる  
ある命あはれ  
われはいつあひん  
らん

わらへくは月北枕の  
いづれも人のま  
すまふおぼやうと  
とられしこと  
われはいつあひん  
いづれにせしむる  
ある命あはれ  
われはいつあひん  
らん

ういれね松のち  
僻處抄云々  
なくとり  
舟もあはれ  
れねくは月北枕の  
いづれも人のま  
すまふおぼやうと  
とられしこと  
われはいつあひん  
いづれにせしむる  
ある命あはれ  
われはいつあひん  
らん

わらへくは月北枕の  
いづれも人のま  
すまふおぼやうと  
とられしこと  
われはいつあひん  
いづれにせしむる  
ある命あはれ  
われはいつあひん  
らん

伊勢

Handwritten text in Kuzushiji script, arranged in vertical columns. The text appears to be a transcription of a document or a list of items, possibly related to a collection or inventory. The characters are dense and characteristic of the Edo-period style.

Handwritten text in Kuzushiji script, arranged in vertical columns. This page contains a similar transcription of text, possibly a continuation of the document on the reverse side. The script is consistent with the adjacent page.





わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ

わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ  
わすれぬことぞ

君をのふらうことぞ  
何はばあはれぞ  
のこしきことぞ  
らげく君をのふらう  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ

君をのふらうことぞ  
よきことぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ  
なほあはれぞ

大捕





羈旅しほのり 尤傳云羈旅之臣杜預

註云羈寄旅容

一也

一也

一也

一也

一也

羈旅寄

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

異九十九

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

一也

業期長

一也

一也

一也

一也

一也

一也

かのいしづかへはしづかの  
 越し言書雅よりのり  
 かのいしづかへはしづかの  
 信のしづかへはしづかの  
 白くはねたるとやにま  
 しいはねたるとやにま  
 こまのしづかへはしづかの  
 下まのしづかへはしづかの  
 やまのしづかへはしづかの  
 ぬるまのしづかへはしづかの  
 ぬるまのしづかへはしづかの  
 のまのしづかへはしづかの  
 云兼乃のりかのねと  
 又いかり黒字のまのしづかへ  
 三つうのりかのねと  
 兼乃のりかのねと

かのいしづかへはしづかの  
 のまのしづかへはしづかの  
 ぬるまのしづかへはしづかの  
 ぬるまのしづかへはしづかの  
 のまのしづかへはしづかの  
 云兼乃のりかのねと  
 又いかり黒字のまのしづかへ  
 三つうのりかのねと  
 兼乃のりかのねと

中条宗典

異十九 上

あり  
 玉たかりあり 萬之集  
 延長八年とあるのちあり  
 下まのしづかへはしづかの  
 にのりかへはしづかの  
 記すに廿月乃月かきけ  
 乃まのしづかへはしづかの  
 ありまのしづかへはしづかの  
 仲磨守のまのしづかへはしづかの  
 乃まのしづかへはしづかの  
 ありまのしづかへはしづかの

あり  
 玉たかりあり 萬之集  
 延長八年とあるのちあり  
 下まのしづかへはしづかの  
 にのりかへはしづかの  
 記すに廿月乃月かきけ  
 乃まのしづかへはしづかの  
 ありまのしづかへはしづかの  
 仲磨守のまのしづかへはしづかの  
 乃まのしづかへはしづかの  
 ありまのしづかへはしづかの

智廣

伊勢の山に花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ

あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ

あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ

あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ  
あはれなる花はあはれ

宇治殿御公別葉全平  
等院

る白妙乃波のそと  
つらつらとそを本  
うら

あつ乃波のそと  
松乃波の細いよら  
み入ふふとつら  
んふふとつら  
ふふとつら

僧正聖賢 元亨釋書  
曰釋聖賢 讚列人先仁  
帝之後也 延喜年為僧正

人ふふとつら  
りふふとつら  
とふふとつら  
ふふとつら

て 真靜法師 御筆

あつ乃波のそと  
まふとつら

はふとつら

まふとつら

てはふとつら

せふとつら 僧正聖賢

人ふふとつら

邪ちふとつら

おちふとつら

る月乃波のそと  
月乃波れ入ゆら  
見れいふと海とつら

このそと海とつら  
おつ海とつら  
け舟き月記つら

大湊とつら  
まふとつら  
まふとつら

草花の松林とつら  
の松林の時とつら  
松林を彼松林の時

つら  
松林乃心をつら  
やとつら

舟中つら

はふとつら

る月乃波のそと

つら

つら 亭子院御製

まふとつら

つら

まふとつら

つら

あつ乃波のそと





中わらるゝあまのねえ

天人の衣をまきく

父君れも年よもえ

る一とて天上の善命

の劫をわらるゝとて

玄朝のきくゝの装

束をねえとわらへ

又をもねえとて

わらりゝゝ

え服も 叙爵も

いとそいえ服も

中侍あまのけい

中わらるゝあまのねえ

ちとせりりりりりり

歌志とて 太政大臣 貞信と

らららららららららら

章明三品 彈正 延喜皇子 母 兼輔女

のりあまのけいりりりり

日あまのけいりりりり

昇りもせりりりり

興化

このわらりゝあまの

衆も年よもえ

すゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃物のおまおま

其義も百葉もみ林

果も年よもえ

かろりゝ 裳も

裳も 女乃裳も

乃え服も

このわらりゝあまの

人乃物のおまおま

あまのけいりりりり

よ年人志とて

あまのけいりりりり

大長乃裳のあまの

かろりゝ 裳も

あまのけいりりりり

大原に春日大明神と  
名原乃祖神とありた  
大臣は天皇と小臣の  
山はねあしよあわえ  
服裳は男女せ長  
のこもれいこ本  
さるれとまき  
うらよす。は乃む  
若もすの若もすの打  
まをせくはあむし  
若もすの若もすのあ  
まをせくはあむし  
成くはあむし

とや。うらよすの若もすの  
人乃若もすの若もすの  
若もすの若もすの  
うらよす。は乃若もすの  
まをせくはあむし  
若もすの若もすの  
若もすの若もすの  
若もすの若もすの  
若もすの若もすの

黒六

年見をさるれとまき  
星子年人貪狼星五  
年人巨門星又成年  
禄存星卯酉年人文昌星  
辰申年人廉貞星己未  
年人武曲星午年人破  
軍星檢校委と年のひ  
とのくまらり

年星をさるれとまき  
星子年人貪狼星五  
年人巨門星又成年  
禄存星卯酉年人文昌星  
辰申年人廉貞星己未  
年人武曲星午年人破  
軍星檢校委と年のひ  
とのくまらり

まね

大原乃家乃けうらうら

けうこうのなま

脇をよま

まやのひ

しうの花

そくを

いざの

しんを

御本

書籍

乃

或

手

智代

多

建

僧都仁教

けうこうのなま

しんを

今上

あ

そ

今上

太政大臣

貞徳公

ひー

今上

清

今上

清

は

大

西

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

今上

清

今上

清

今上

清

今上

清

今上

清

今上

清

今上

清

今上

清



表傳奇

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あ

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也

あつと 教教義人  
たか將 天曆元年卒  
法信公也











相...  
う...  
ち...  
つ...  
ひ...  
や...  
き...  
一...

兼補羽臣 左藤利基  
貞延長元年申納  
承平三年薨  
一...  
紀氏新撰乃書之  
自序...  
兼補羽臣

とく...  
か...  
ま...  
り...  
兼補羽臣...  
さ...  
田...  
う...  
ち...  
さ...  
な...

兼補羽臣...  
さ...  
田...  
う...  
ち...  
さ...  
な...

新...  
ち...  
年...  
人...  
知...  
に...  
そ...  
一...

上...  
紅...  
ふ...

か...  
は...  
人...  
あ...  
り...  
さ...  
あ...  
あ...

あ...  
神...  
あ...

神なりし時ありしに  
平生の今この世に  
神に候ふにありし  
いふに  
わが  
神なりし時ありしに  
平生の今この世に  
神に候ふにありし  
いふに  
わが  
神なりし時ありしに  
平生の今この世に  
神に候ふにありし  
いふに  
わが

教忠朝臣時年公是  
從二位權守卿  
天慶六年三月薨  
君のりし時ありしに  
白やらぬ  
いふに  
親のりし時ありしに  
いふに  
わが  
他人ありしにあり  
人ありしにありし  
いふに  
いふに

わが  
他人ありしにあり  
人ありしにありし  
いふに  
いふに  
わが  
他人ありしにあり  
人ありしにありし  
いふに  
いふに  
わが  
他人ありしにあり  
人ありしにありし  
いふに  
いふに



在原方... 伊勢

あはれ... 詩ニ鶴鳴... 同平天...

乃ほ... 兼補胡唐

あはれ... 兼補胡唐... 乃ほ...

あはれ... 兼補胡唐...

昭陽令 禁中五舍  
乃一也梨壺云云  
これ

本云

天曆五年十月晦日於昭陽令撰之  
為藏人左近少將藤原伊弉當  
寄人讚波大掾大中左衛門河内掾清原  
元暉 學生源順 近江少掾紀時 文法書  
所預以上等撰者也 謂之梨壺五人  
奉行文お江故焉

異七 十五

一本云  
公心皆書名朝臣  
此集三兼補朝臣  
庶明朝臣伊衛朝  
臣好吉朝臣の  
此把名大信  
この海より  
一のりてあり  
そのり事也  
作者名字等  
粟津山本のむすめ  
後所の本より  
乃心より  
此本を法補の本  
おはれの少將の  
同并入お都 お三註  
戸部尚書 氏との

此集故者公卿皆書名朝臣  
并是部与律務贈名書葉平朝臣名如此事後  
代人或推而直之是非云云之誤此集之本説  
也不可直改作者名字等家本多相替皆  
隨所受之説書之同并入お都古今并久  
此事只隨本也

貞應二年九月二日幸  
書寫一殿傳之家本患用  
嫡孫也

同三日令讀公世早  
判

唐名之定家之康一本云  
 保四年正月十二日任  
 及部之貞應安  
 貞寛喜中し  
 明静 定家卿貞永  
 元年十月出家志  
 多し法名也  
 融覚 爲家之康元  
 元年二月廿日出家  
 志多し法名也  
 万壽按察大納言  
 行成ののり行成の  
 長和四年十月十九日  
 任權大納言万壽三  
 年二月七日按察使二  
 但ぞの謙徳の  
 孫義孝乃の

天福二年三月二日唐子重の康本終書写現  
 千時顔齡七十三眼昏年按察使威字教業門明静  
 同十四日令讀合之書入落字字爲訖  
 此本付属大吏爲相顔齡六十八業門融覚  
 此集謙徳公藏人少將之時奉行之由見于此  
 文万壽按察大納言之等定爲證本於之由致  
 信尋出彼本校合色版抄表紙 無殊抄本近代  
 親之相異事爲以朱註之  
 或抄之於納言等志名于下年とらふ  
 於此本に在り是他に他名七字也

あとうかりありと被書  
 ところなりとをいふなり  
 作者 志多し法名は本又云いふなり  
 此節行幸なりと云ふなり  
 陽明院のなりと云ふなり  
 けいりし書なりと云ふなり  
 ところなりと云ふなり  
 天福二年四月六日校入

世間久云借之說

孰云々々上古人云々々々古今

孰云々々上古人云々々々撰

題上古人云々々々拾遺集云云

云々 後國乃云々  
豆家云の云々云々

亡父命云此說不定事也被書進院之本  
皆如古今被書今見此本果而如古今  
如此事只後人之所撰錄

道曆 未考

為尹 權中納言為秀  
乃男 尤中將從置上  
仁壽

以家本 皇朝 今校合了云云乃家本矣道曆判

以相傳本 今校合了云云可為校本矣民部為尹判

今家本付 朱里生之照者也可擬校本平

後撰集校本 栗泉軒自筆真書字之

文明六稔 九月五日 是天以家本今馳免亮託  
云可為校本者也 同校合之 羽林良將藤判

自延寶七年霜月十八日 至八年 曆二月廿二日 註解子 季吟



異化 十七

